

平成31年01月21日

野々市市議会議長 早川 彰一 様

(報告者)

会派名〔又は〕 市政議員会
 代表者〔議員名〕 土田 友雄



政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、研修、~~要望~~・陳情）を実施したので、報告します。

期 間	平成31年01月18日
視察、研修、要望・ 陳情の場所	石川県地場産業振興センター 新館5階 第12研修室
参加者氏名	土田 友雄・宮前 一夫・安原 透
目 的 (調査・視察事項)	砂防関連団体による合同研修会 国土交通省水管理・国土保全局 砂防部砂防計画課長今井 一之氏の 講演、並びに国土交通省金沢河川国道事務所・石川県土木部砂防課よ りの事業説明
調査・視察概要	<p>(目的、内容、結果、所感等について記入)</p> <p>15:00～15:20 開会 主催者代表挨拶 杉本会長・稲村会長 祝辞 山田所長・板屋部長</p> <p>15:20～16:30 講演 国土交通省水管理・国土保全局砂防部 砂防計画課長今井一之氏</p> <p>16:30～17:00 事業説明 国土交通省金沢河川国道事務所 流域対 策課長 中山兼一氏、石川県土木部次長兼砂防課長 藤本康司氏</p> <p>講演：「地域が主役の砂防」</p> <p>日本全国赴任地での体験・経験を踏まえた、砂防工事による砂防堰 堤や施設などのハードを、観光資源などとして利活用した事例を集め、 各自治体に向けてではなく、その地域に住まう方が主役となって地域 おこしをされている事例を紹介。</p> <p>具体には、石狩の青い池では年間40万人の観光客が訪れる砂防堰堤に よってきた池の実例や、飛騨市・小谷村・津南町などでの観光資源化 した事例を紹介。命を守るための砂防事業を身近に感じていただき、</p>

地域を元気にしていくことにつながることを実感した。

安心・安全のためだけではなく、インフラ整備が生産拡大効果にもつながっていくこと、また行かねばならないことを学んだ。

一方で、昨年年初来、平成30年は「災」の年であった。特に豪雨による土砂災害では、例年の3倍の3,000件余の発生を見、観測史上まれにみる、記録更新という言葉が並んだ。

そこにおいて、我々の責務は単にハードとしての砂防事業の推進だけではなく、「防災面」からの見方も大事である。「避難勧告発令」があっても「逃げない」人々。尊い命が失われていく。逃げ遅れをなくするための各地区での取り組み。「声かけ」避難が大事だと。

また、他面で防災施設があったから、被害が少なかった、全くなかったという事例をもっとPRすべき。西日本豪雨では、NHKが広島県の1例だけ取り上げてくれた。自主避難に向けた実効性のある対策をもっともって考えていくべき。また、平成26年の豪雨災害を受け近年では「土砂災害・全国防災訓練」参加人数が飛躍的に増加している。ぜひ、住民参加型の自主訓練・自主組織の育成が重要な防災の一翼を担っていることも忘れずに。

また、工事においても無人化などによる安全管理の徹底がすすんでいる。ICT砂防施工技術を活用することや、UAV（通称：ドローンなど）による危険個所の目視に代わる効率かつ安全点検の推進なども検討している。さらに、強靱ワイヤーネットの施工による被害後の早期対策なども西日本豪雨を受け推進している。

直轄砂防事業・地滑り対策事業の概要

金沢河川国道事務所より主に甚之助谷の地滑り概要について説明があり、現在排水トンネル（万才谷から赤谷への水の誘導用）を施工中との説明がある。

いしかわの砂防「県の取組み」

石川県土木部砂防課より、石川県の取組みとしての「SABO アイ」の説明、県内17の市町各エリアでの町ごとの自主防災・避難訓練状況県政出前講座の説明があり、今年度の土砂災害を受け、わかりやすいリーフレットの作成、「水害・土砂災害から身を守るために」をテーマにした県政出前講座を新たに追加、水害土砂災害セミナーを防災士を対象に今年度中に開催予定との説明があった。

所感

野々市市は唯一氾濫の恐れがある河川があるだけで、直接的な被害想定は難しいが、上流域での様々な取り組みのおかげで、下流域の我々

	の安全な暮らしがあると改めて実感した。
備 考	

※記入欄が不足する場合は、欄を広げる等適宜調整してください。